

2010.4.3

生誕200年 同じ年に生まれた二人の天才
ショパンとシューマン 第2回

プログラム

今年生誕200年を迎えた1810年生まれの二人の天才作曲家、ショパンとシューマンを特集する第2回目です。それまでピアノの技術的な練習をするための音楽とされてきた練習曲を芸術的な音楽性を備えた楽曲として確立させたのがショパンの練習曲です。今日はその中から5曲を聴いて頂きます。ピアノ協奏曲第1番はポーランドを去ってウィーンへ行く直前に書かれた華麗なピアノリズムに溢れた名曲。シューマンのピアノ曲もショパンに劣らず魅力的ですが、「子供の情景」もロマンティズムに溢れた名作。ピアノ五重奏曲は明るい躍動感と豊かな抒情性とが絡み合うこのジャンルの傑作のひとつ。交響曲第4番は2番目に書かれた交響曲ですが、幻想的な曲想とシンフォニックなロマン性が際立った名曲です。ショパンとシューマン、それぞれの魅力を味わって頂ければと思います。

フレデリック・ショパン (1810~1849):

12の練習曲op.10

第3番ホ長調 “別れの曲”

マレイ・ペライア (ピアノ)

(1993.9.30 ウィーン・ムジークフェラインサールでのLive)

第5番変ニ長調 “黒鍵”

モーラ・リンパニー (ピアノ)

(1992.4.3 サントリーホールでのLive)

第12番ハ短調 “革命”

イエフム・ブロンフマン (ピアノ)

(1992.6.7 ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive)

12の練習曲op.25

第7番嬰ハ短調

フリードリッヒ・グルダ (ピアノ)

(1993.11.5 オーチャードホールでのLive)

第11番イ短調 “木枯らし”

マウリツィオ・ポリーニ (ピアノ)

(1988.5.30 ウィーン・ムジークフェラインサールでのLive)

ピアノ協奏曲第1番ホ短調op.11 ~ 第1楽章、第2楽章から、第3楽章から

マウリツィオ・ポリーニ (ピアノ)

ゲンナジ・ロジエストヴェンスキー指揮フィルハーモニア管弦楽団

(1988 ロンドン、ロイヤル・アルバートホールでのLive)

*** 休憩 ***

ロベルト・シューマン (1810~1856):

子供の情景op.15 から

見知らぬ国より ~ 珍しいお話 ~ 鬼ごっこ ~ トロイメライ (夢)

マルタ・アルゲリッチ (ピアノ) (1983年録音 グラモフォン盤)

ピアノ五重奏曲変ホ長調op.44 ~ 第1楽章、第2楽章、第4楽章

エレヌ・グリモー (ピアノ) / ルノー・カプリン (ヴァイオリン) / 庄司紗矢香 (ヴァイオリン)

ラーシュ・アンダーシュ・トムテル (ヴィオラ) / ミツシャ・マイスキー (チェロ)

(2007.7.25 スイス・ヴェルビエ、サル・メドランでのLive)

交響曲第4番ニ短調op.120

リッカルド・ムーティ指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

(1993.5.24 ウィーン・コンツェルトハウス大ホールでのLive)